



2026年8月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年7月10日
東

上場会社名 株式会社メディア工房 上場取引所
 コード番号 3815 URL <http://www.mkb.ne.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 長沢 一男
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 長沢 和宙 (TEL) 03-5549-1804
 配当支払開始予定日 —
 決算補足説明資料作成の有無 : 無
 決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2026年8月期第3四半期の連結業績(2025年9月1日~2026年5月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年8月期第3四半期	1,220	△14.2	△396	—	△400	—	△353	—
2025年8月期第3四半期	1,423	△6.3	△106	—	△117	—	△193	—

(注) 包括利益 2026年8月期第3四半期 △353百万円(—%) 2025年8月期第3四半期 △193百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年8月期第3四半期	△33.21	—
2025年8月期第3四半期	△19.17	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年8月期第3四半期	1,649	586	35.4
2025年8月期	2,277	708	30.9

(参考) 自己資本 2026年8月期第3四半期 583百万円 2025年8月期 704百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年8月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2026年8月期	—	0.00	—	—	—
2026年8月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2026年8月期の連結業績予想(2025年9月1日~2026年8月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,650	△11.9	△495	—	△500	—	△587	—	△55.59

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

2026年8月期の通期業績見通しは、各事業の見通しに基づき予測する数値となっております。各事業の進捗並びに業績に与える影響を精査の上、当該連結業績予想に変更が生じた際は、速やかに訂正・開示いたします

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年8月期3Q	11,300,000株	2025年8月期	11,300,000株
② 期末自己株式数	2026年8月期3Q	382,302株	2025年8月期	871,144株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2026年8月期3Q	10,658,074株	2025年8月期3Q	10,078,856株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に掲載される業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提条件に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではございません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性がございます。業績予想の前提となる条件及び業績のご利用に当たっての注意事項等に関しては、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	7
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	8
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	9
(セグメント情報等)	10
(収益認識関係)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

文中の将来に関する事項は、当第3四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、雇用・所得環境の改善を背景に、景気は緩やかな回復基調で推移いたしました。個人消費には持ち直しの動きがみられ、設備投資も底堅く推移するなど、内需を中心に緩やかな回復が続きました。一方で、物価上昇の継続により家計の購買力への影響がみられるほか、海外景気の動向や為替相場、金融資本市場の変動に加え、米国の通商政策の影響など、先行きについては不透明な状況が続いております。

このような情勢の中、当社グループは、強みである占い分野における知見およびデータを新たな事業機会の源泉と位置づけ、占いコンテンツを核としたユーザー体験の深化に取り組むとともに、ユーザー行動や嗜好データの分析・活用を通じたBtoB向けマーケティング支援やデータ活用サービスなど、周辺領域への事業展開を推進してまいりました。しかしながら、主力である占いコンテンツ及びチャット占いサービスにおいて利用動向が低調に推移したことに加え、データ・テクノロジー事業における採用費及び人件費、並びにシステム開発に係る業務委託費の増加や、管理部経費における一時的な支出（IR強化に向けたコンサルタント費用、本店オフィスの移転費用18百万円及び中間株主優待導入に伴う株主優待費用62百万円等）が影響し、売上・営業利益が前年同期を下回りました。

なお、当第3四半期連結累計期間においては、本店オフィスの移転補償金43百万円のほか、フランチャイジーとして運営するシミュレーションゴルフ店舗「LoungeRange」の事業譲渡益約4百万円を特別利益として計上しております。

以上の結果、当社グループの当第3四半期連結累計期間の経営成績は、売上高1,220百万円(前年同期比14.2%減)、営業損失396百万円(前年同期は営業損失106百万円)、経常損失400百万円(前年同期は経常損失117百万円)、親会社株主に帰属する四半期純損失353百万円(前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失193百万円)となりました。

このような状況を踏まえ、2026年6月3日付「コスト削減等の施策の実施及びこれに伴う特別損失計上並びに通期業績予想の修正に関するお知らせ」でお知らせいたしましたとおり、現在当社グループは、既存事業の収益力回復と中長期的な成長基盤の構築を目的として、事業構造改革（リストラクチャリング）を推進し、不採算事業の整理・縮小、業務委託費の見直し及び生成AIを活用した業務の内製化を進めるとともに、経営資源を収益性の高い既存事業及び成長が期待される事業へ重点的に配分する体制への転換を図っております。

これらの施策は、主に2027年8月期より本格的に効果をもたらす見込みですが、業務委託費用の削減や前述の「LoungeRange」事業譲渡益約4百万円をはじめ、一部内容は6月以降段階的に効果を発揮しており、当事業年度の業績に反映されております。なお、同お知らせにおいて、特別損失87百万円を当第3四半期決算において計上する見込みである旨記載しておりますが、内容精査のため、計上時期は2026年8月期連結決算となる見込みです。

セグメントごとの取組み内容及び経営成績は、以下のとおりであります。なお、第1四半期連結会計期間より、報告セグメントとして記載する事業セグメントを変更しております。そのため、当第3四半期連結累計期間の比較・分析は、変更後の区分に基づいております。

① 占い事業

占い事業においては、自社Webサイト、ISP、各移動体通信事業者及びApple や Google 等のプラットフォーム向けに占い鑑定や女性に向けた記事コンテンツを企画・制作・配信する1対N向けのサービス及びユーザーと占い師が電話・チャットで直接、双方向にやり取りできる1対1向けのサービスを行っております。

当第3四半期連結累計期間においては、新たな制作用システム・体制（新フレームワーク）の開発及び運用開始の遅延により、新規コンテンツの挺入れ及び既存コンテンツのリニューアルが当初計画どおり進捗せず、収益に影響を及ぼしました。また、電話・チャット占いにおいても、人気占い師の離脱及び生成AIの普及等によるユーザー行動の変化を背景として相談件数が減少し、前年同期を下回る結果となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における占い事業の売上高は1,129百万円(前年同期比15.7%減)、営業利益164百万円(前年同期比44.8%減)となりました。

なお、当第3四半期以降は、事業構造改革の一環として、新フレームワーク開発の中止、外部委託費の削減及び生成AIを活用した業務の内製化を推進するとともに、収益性の高い既存コンテンツへの経営資源の集中を進めております。今後は、YouTube等を活用した集客導線の強化、テーマ別コンテンツの拡充及び電話・チャット占いとの連携強化に取り組み、収益力の回復を図ってまいります。

② データ・テクノロジー事業

データ・テクノロジー事業においては、古い事業において蓄積された嗜好・行動データをはじめとするIP資産を活用したBtoB向けサービス、新規IPサービスの開発・提供を行う他、キャラクター通話アプリ「きゃらデン」の運営を行っております。なお、BtoB向けサービスについては引き続き開発投資段階にあり、当第3四半期連結累計期間における売上高は主に「きゃらデン」によるものであります。「きゃらデン」は堅実な運営とイベントの奏功により徐々に売上を伸ばしており、第2四半期以降黒字を維持しております。一方、BtoB向けサービス及び新規IPサービスについては、人件費や外部委託費等の費用が先行しており、また、Youtube番組「スキピチュ」についても製作費の回収に至っていないことから、営業損失を計上しております。

これに伴い、当社では、データ・テクノロジー事業における不採算施策の見直し及び業務委託費の削減を進めるとともに、生成AIを活用した業務効率化を推進し、収益性改善に向けた体制整備を進めております。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間におけるデータ・テクノロジー事業の売上高は84百万円(前年同期比15.5%増)、営業損失143百万円(前年同期は営業損失64百万円)となりました。

③ その他事業

当社グループでは、金額又は連結売上高若しくは連結営業利益に占める割合等から重要性が低いと判断した事業等については、一括して「その他」セグメントとして区分し、計上しております。当第3四半期連結累計期間における内容といたしましては、韓国コスメEC「Corée11eJAPAN」及びフランチャイジーとして運営するシミュレーションゴルフ店舗「LoungeRange」が含まれております。なお、「LoungeRange」については、事業ポートフォリオ見直しの一環として、2026年5月末に事業譲渡を実施し、運営を終了いたしました。これにより事業譲渡益約4百万円を計上しております。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間におけるその他の売上高は7百万円(前年同期比30.5%減)、営業損失12百万円(前年同期は営業損失27百万円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の当社グループの財政状況は以下のとおりです。

なお、資本の財源及び資金の流動性にかかる情報については、当第3四半期連結累計期間において、重要な変更等はございません。

(資産の状況)

当第3四半期連結会計期間末の資産合計は、前連結会計年度末と比較して627百万円減少し、1,649百万円となりました。これは主に、現金及び預金の減少633百万円及び売掛金の減少26百万円によるものです。

資産の内訳は、流動資産1,198百万円、有形固定資産75百万円、無形固定資産262百万円及び投資その他の資産113百万円となっております。

(負債の状況)

当第3四半期連結会計期間末の負債合計は、前連結会計年度末と比較して506百万円減少し、1,063百万円となりました。これは主に、1年内返済予定の長期借入金の減少148百万円及び長期借入金の減少190百万円によるものです。

負債の内訳は、流動負債662百万円、固定負債401百万円となっております。

(純資産の状況)

当第3四半期連結会計期間末の純資産合計は、前連結会計年度末と比較して121百万円減少し、586百万円となりました。これは主に、利益剰余金の減少353百万円によるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループの連結業績予想などの将来予測情報については、2026年6月3日に公表いたしました「コスト削減等の施策の実施及びこれに伴う減損損失の計上並びに通期業績予想の修正に関するお知らせ」の内容、数値から変更はありません。その内容は次のとおりです。

今後につきましては、国内経済において緩やかな景気回復が期待される一方、世界経済の先行きや地政学的リスク等により、経営環境は引き続き不透明な状況が続くものと認識しております。また、当社グループの属するデジタルコンテンツ業界においては、プラットフォーム運営事業者の方針変更や広告市場の変化、生成AI技術の急速な普及等により、市場環境及び競争環境が大きく変化しております。

このような事業環境のもと、当社グループは現在、2026年8月期に実施したリストラクチャリングを通じて、不採算事業の縮小・撤退、業務委託費等の固定費削減及び生成AIを活用した業務の内製化を推進し、収益構造の改善に取り組んでおります。

また、経営資源を収益性の高い既存事業へ重点的に配分するとともに、SNSや動画配信等を活用した集客強化、生成AIを活用した業務効率化及びサービス品質向上を推進し、中長期的な収益基盤の強化を図ってまいります。

以上を踏まえ、当社グループが予想する2026年8月期の連結業績数値は次のとおりです。

売上高1,650百万円 営業損失495百万円 経常損失500百万円 親会社株主に帰属する当期純損失587百万円

これらの数値は、各事業の見通しに基づき予測する数値となっております。したがって、今後の事業環境の変化、リストラクチャリング施策の進捗及び効果、生成AIを活用した業務効率化の実現状況、既存事業の収益回復、新規事業の収益化時期、プラットフォーム運営事業者の方針変更等により、実際の業績は予想数値と異なる可能性があります。

当社グループは、今後も資産の透明性を確保し、財務基盤の健全性を維持するとともに、資本効率を意識した経営を推進し、持続的な企業価値の向上に努めてまいります。

なお、当社では現在、中期経営計画（2026年8月期～2028年8月期）について策定中であります。策定次第速やかにお知らせいたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2026年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,595,941	962,855
売掛金	196,873	169,900
仕掛品	7,936	13,016
貯蔵品	137	111
その他	59,999	52,880
貸倒引当金	△556	△523
流動資産合計	1,860,331	1,198,240
固定資産		
有形固定資産	36,008	75,719
無形固定資産	201,285	262,405
投資その他の資産		
敷金及び保証金	94,162	46,934
その他	86,073	66,765
貸倒引当金	△235	△235
投資その他の資産合計	180,001	113,463
固定資産合計	417,294	451,588
資産合計	2,277,626	1,649,829
負債の部		
流動負債		
買掛金	47,241	42,996
短期借入金	97,200	72,000
1年内返済予定の長期借入金	511,884	363,443
未払費用	38,731	41,778
未払法人税等	4,425	825
未払消費税等	1,757	-
株主優待引当金	107,411	13,139
その他	168,954	127,945
流動負債合計	977,604	662,127
固定負債		
転換社債型新株予約権付社債	300,000	300,000
長期借入金	292,021	101,428
固定負債合計	592,021	401,428
負債合計	1,569,625	1,063,555

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2026年5月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	451,459	451,459
資本剰余金	442,460	470,227
利益剰余金	177,030	△176,896
自己株式	△366,835	△160,986
株主資本合計	704,115	583,805
新株予約権	3,886	2,468
純資産合計	708,001	586,273
負債純資産合計	2,277,626	1,649,829

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年9月1日 至 2025年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年9月1日 至 2026年5月31日)
売上高	1,423,381	1,220,994
売上原価	715,437	691,673
売上総利益	707,944	529,320
販売費及び一般管理費	814,150	926,237
営業損失(△)	△106,206	△396,916
営業外収益		
受取利息	4,154	4,342
その他	279	1,468
営業外収益合計	4,434	5,811
営業外費用		
支払利息	8,393	8,949
社債発行費	7,339	-
その他	47	524
営業外費用合計	15,780	9,474
経常損失(△)	△117,552	△400,579
特別利益		
移転補償金	-	43,746
事業譲渡益	-	3,999
特別利益合計	-	47,746
税金等調整前四半期純損失(△)	△117,552	△352,832
法人税、住民税及び事業税	1,283	1,094
法人税等調整額	74,361	-
法人税等合計	75,644	1,094
四半期純損失(△)	△193,197	△353,927
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△193,197	△353,927

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年9月1日 至 2025年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年9月1日 至 2026年5月31日)
四半期純損失(△)	△193,197	△353,927
その他の包括利益		
四半期包括利益	△193,197	△353,927
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△193,197	△353,927

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年9月1日 至 2025年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年9月1日 至 2026年5月31日)
減価償却費	25,180千円	42,647千円

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2024年9月1日 至 2025年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	古い事業	データ・テクノロジー事業	計				
売上高							
顧客との契約から生じる収益	1,340,064	72,729	1,412,793	10,588	1,423,381	—	1,423,381
外部顧客への売上高	1,340,064	72,729	1,412,793	10,588	1,423,381	—	1,423,381
セグメント間の 内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	1,340,064	72,729	1,412,793	10,588	1,423,381	—	1,423,381
セグメント利益又は セグメント損失(△)	298,028	△64,041	233,987	△27,605	206,382	△312,588	△106,206

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、EC事業などの事業を含んでおります。

2. セグメント利益又はセグメント損失(△)の調整額△312,588千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用312,588千円が含まれております。全社費用は、主に当社の管理部門に係る費用であります。

3. セグメント利益又はセグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2025年9月1日 至 2026年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	占い事業	データ・テクノロジー事業	計				
売上高							
顧客との契約から生じる収益	1,129,599	84,034	1,213,634	7,359	1,220,994	—	1,220,994
外部顧客への売上高	1,129,599	84,034	1,213,634	7,359	1,220,994	—	1,220,994
セグメント間の 内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	1,129,599	84,034	1,213,634	7,359	1,220,994	—	1,220,994
セグメント利益又は セグメント損失(△)	164,443	△143,717	20,725	△12,556	8,169	△405,085	△396,916

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、EC事業などの事業を含んでおります。

2. セグメント利益又はセグメント損失(△)の調整額△405,085千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用405,085千円が含まれております。全社費用は、主に当社の管理部門に係る費用であります。

3. セグメント利益又はセグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社グループの強みである占い分野における知見とデータを源泉に、ユーザー行動や嗜好等に関するデータを分析・活用し、BtoB向けのマーケティング支援やデータ活用サービスなどの事業展開を進めていくことに伴い、当社グループ内の管理区分を見直し、第1四半期連結会計期間より、報告セグメントを従来の「占い事業」、「エンタメ・マッチングサービス事業」から、「占い事業」、「データ・テクノロジー事業」に変更しております。

「エンタメ・マッチングサービス事業」に含まれていたきやらデン、「その他」に含まれていた新規事業の美肌ナビ、BtoB向けデータマーケティング等を集約し、「データ・テクノロジー事業」へと変更しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおりであります。